

前捻角が大腿骨頸部骨密度の測定値に与える影響について

1. 研究の対象

以下のいずれかに該当する方

- ①2021年1月～2021年12月に当院で下肢CTを受けられた方
- ②2022年6月～2023年8月に当院で腹部CTまたは下肢CTを受けられた方で、
2023年1月～2023年2月に当院で骨密度測定を受けられた方
- ③2023年1月～2023年2月に当院で下肢CTを受けられた方

2. 研究目的・方法

大腿骨頸部骨密度測定を行う際には下肢（足から股関節）を内旋（内側に回転）させ固定して行います。固定するために専用の固定具を使用、足を密着させバンドで固定します。内旋固定を行う理由には2つあり、①骨密度測定は経過観察を行うことが多く再現性を確保するため。②測定する大腿骨頸部（股関節付近）にある前捻角とよばれる傾きを補正するためです。

骨密度測定を行う際の下肢の内旋の大きさが骨密度の測定結果に影響するという研究結果は出ていますが、下肢を内旋固定した骨密度測定を行う際に前捻角がどのようになっているかを調べた研究はなく、骨密度測定の際の前捻角の推定を行い測定結果に影響を与えていないかを明らかにしたいと思っています。

今回の研究では骨密度測定とCT検査を行なった患者さんの画像データを比較することで前捻角の推定を行い、前捻角と測定値の関係は大腿骨頸部ファントム（測定用の模型）を用いて調べ、二つの結果を照らし合わせることで影響の有無を評価しようと考えています。

前捻角の個人差を調べる目的の予備実験として、股関節CTを行なった患者さんの画像データから前捻角の測定も考えています。

研究期間は、2024年3月末までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：CT検査データ、大腿骨頸部骨密度測定データ

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等かがありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

今回得られる情報が当該研究に用いられることについて同意いただけない場合は研究対象としませんので、お問い合わせ先までお申し出ください。拒否された場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

高知大学医学部附属病院 医療技術部 放射線部門 一円善史 [TEL:088-866-5811](tel:088-866-5811)

研究責任者:高知大学医学部連繫医工学分野 渡橋和政